

南高図書館だより

2025 年 10 月号
浦和南高校図書館

図書委員のおすすめ本

『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス／著 小尾美佐／訳 早川書房(ハヤカワ文庫 NV)

僕はダニエル・キイスによって作られた『アルジャーノンに花束を』という作品をおすすめします。

大の大人ながらも幼稚ほどの知能を持ち、小さい頃からみんなと同じようになりたいと願っていたチャーリーが、手術を通じて、並外れた知能を手に入れていく、というお話です。ただ、賢くなってしまった故の苦悩が彼を襲います。「知らなくていいこともある」、そう教えてくれました。

NO
IMAGE

『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』

フィリップ・K. ディック／著 浅倉久志／訳 早川書房(ハヤカワ文庫 SF)

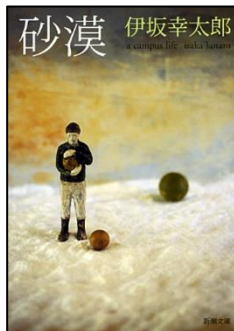
『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』は、人間とアンドロイドの境界を問い直すSF作品です。感情を持つことが人間らしさを定義するのか、機械に感情は存在するのかというテーマが根底にあります。主人公デッカーの葛藤と成長を通じて、「人間らしさ」や「生きる意味」について深く考えさせられます。未来的な世界観の中で、人間性の本質を問いつけるこの物語は、読後に強い印象を残します。

NO
IMAGE

『砂漠』

伊坂幸太郎／著 新潮社(新潮文庫)

入学した大学で出会った5人の男女が共に経験した出来事や事件を通して、互いの絆を深め、成長していくストーリーです。男女5人の大学生が主人公の青春小説なので、とても読んでいて面白い作品となっています。また、登場人物の中には1人が超能力を使えたり、他の登場人物も個性豊かなキャラクターなため楽しみながら読める作品となっています。これから大学に進学する人にとってはどのようなことがあるか期待を込めて読むことができると思うのでぜひ読んでみてください！



図書館からのお知らせ

◆さいたま市図書館コラボ企画◆

第8回おすすめ本の交換展示！

浦和南高校⇄武蔵浦和図書館

高校生と図書館員が思いをこめて作ったPOPを交換するイベントです。



展示期間 令和7年10月28日(火)から11月14日(金)まで
※武蔵浦和図書館では11/16(日)まで

展示場所

南高図書委員のPOP → 武蔵浦和図書館に展示

武蔵浦和図書館員のPOP → 南高図書館に展示

さいたま市図書館ホームページ※に今回のイベントについて掲載される予定です。

※URL: <https://www.lib.city.saitama.jp/contents?5&pid=7324>
(10月24日現在、前回のイベント内容が掲載されています。)



あなたも挑戦！「図書館たほいや」クイズ ~次のお題の正解は？~

お題【ヒエログリフ】 出典:『楽しいヒエログリフ入門』(クリスチャン・ジャック／著 草思社)

1, 予言する能力を象徴する動物は？

A. ハゲワシ B. キリン C. 野生のヤギ

2, あなたは  を持っていますか？

A. 持っている B. 持っていない

選択肢のうち、どれが正解かわかりますか？

正解は次頁にあります➡



「図書館たほいや」とは？

図書館に所蔵されている辞書や辞典を使った言葉遊びゲーム。
ルールは「図書館たほいや普及委員会HP」でチェックできます





知識の本

自分を信じる勇気 10代のための「アドラー」の教え 自信が生まれる「個性」と「知性」のみがき方

岩井俊憲／著 誠文堂新光社

勉強のつまずき、人との距離感、性格の悩み…。「劣等感」は、自分が自信をつけるための、かけがえのない友。10代の人に向け、アドラー心理学をベースに、壁を乗り越えるメンタルを育む「心理学的に正しい」方法を伝える。

地域別×武将だからおもしろい戦国史

小和田哲男／監修 かみゆ歴史編集部／編 朝日新聞出版

室町幕府を二分した応仁・文明の乱から徳川家康が江戸幕府を開くまでの歴史を、東北、関東、京・近畿など地域ごとに分けて解説。有名戦国大名から国人領主まで、郷土の英雄といえる武将や、関連する映画やドラマ、マンガ、小説なども紹介する。

正しく疑う 新時代のメディアリテラシー

池上彰／監修 Gakken

何気なく過ごす日常で膨大な情報を受け取る時代。情報源はマスメディア、SNS、うわさ話と色々あり、流れて来るテーマも多種多様で、時には自分が発信者になることもある。与えられた情報を瞬間的に信じたり、とっさに間違った行動をしないために、情報との向き合い方や発し方のコツを、マンガやイラストでわかりやすく伝えてくれる本。

Tシャツの日本史

高畑敏名／著 中央公論新社

裾を出すのか、入れるのか。Tシャツの裾はとんでもない同調圧力を発生させる。日本の若者たちは、裾のさばき方を間違えると周りにバカにされてしまう上に、無情にも時代によってさばき方のルールが変わる世界に生きている。「初めてファッションをバカにされた日のことを覚えている。そのとき着ていた服を、今でも覚えている。」と言う著者が、ファッション史の死角であるTシャツの日本史を通して、日本の同調圧力の来歴と美の仕組みを書き留める。

古生物超入門 基本から「なぜ？」まですっきり理解できる

土屋健／著 芝原暁彦／監修 土屋香／イラスト 立夏堂

鳥と恐竜の関係は？ 大量絶滅の原因は？ 日本はかつてゾウ大国だった？ アンモナイトからティラノサウルス、マンモスまで、太古の昔にこの地球にいた「古生物」の不思議や魅力を紹介する。

今さら聞けない有機肥料の話きほんのき 米ヌカ、鶏糞、モミガラ、竹、落ち葉からボカシ肥、堆肥まで

農文協／編 農山漁村文化協会

有機肥料とは、生物とその生産物（や排泄物）である「有機物」を原料にした肥料のこと。循環型で環境に優しく、微生物を育てて土壌環境も改善してくれる。化学肥料の高騰もあって近年ますます注目を集める有機肥料について、基本的な知識から、身近な有機物を使った各種ボカシ肥の作り方・使い方、重労働といわれる堆肥づくりや堆肥散布をラクにする方法までをまとめる。

小説・文学

イン・ザ・メガチャーチ

朝井リョウ／著 日経BP日本経済新聞出版

「神がいないこの国で人を操るには、“物語”を使うのが一番いいんですよ」オーディション番組発のグループのデビューのため、共感性が強く視野を狭めやすいファン層を絞り込み、そこへ適切なタイミングで“物語”を提供していく、ファンダム経済を仕掛ける者。周囲から孤立していると感じる寂しさから、提供されるアイドルの“物語”にのめり込み、先鋭化していく者。かつて別の“物語”にのめり込んでいた者。三者三様の視点から、「推し活」の影に潜む孤独を描く。

アフターブルー

朝宮タ／著 講談社

葬儀関係のプロ集団「株式会社C・F・C」で、事故、事件など損傷の激しい遺体を扱う「二課」は、無残な状態から生前の面影を復元するのがミッション。そして納棺師たちもまた、それぞれに“喪失”を抱えていて…。第19回小説現代長編新人賞受賞。

僕たちは我慢している

藤岡陽子／著 COMPASS

日本屈指の進学校に通う高校生の、道人、英信、揮一。中学から野球部で一緒だった三人だが、それぞれに葛藤を抱えていた。部活を最後まで続けるか？ 医者である親の後を継ぐために国立大学の医学部へ進学するべきか？ 様々な人から助言を聞いた彼らは、自分自身の人生に真摯に向き合い、自分の進路を決めていく。勉強法や参考書の会話も参考になる青春小説。



ビブリオバトルを開催しました

10月24日(金)放課後、1 年次図書委員がビブリオバトルを行いました。

ビブリオバトルとは「知的書評合戦」ともいわれる、本の紹介ゲームです。

参加者(バトラー)が制限時間内に好きな本を紹介し、その後の投票で一番読みたいと思った人が多い本が「チャンプ本」となります。

今回は、4人前後の班に分かれて班ごとにお互い本の紹介を行いました。
その後、各班のチャンプ本が次のとおり決まりました。

『働く男』 星野源／著 文藝春秋(文春文庫)

『夢をかなえるゾウ』 水野敬也／著 文響社

『セロ弾きのゴーシュ』 宮沢賢治／著 角川書店(角川文庫)

『神さまのビオトープ』 凧良ゆう／著 講談社(講談社タイガ)